

# さまざまな人が支え合う お互い様の地域づくり 事例集

## 多賀町

- 多賀町大杉サロン「しゃくなげの会」
- 栗栖サロン「ヒヤシンス」

■活動内容

- 地域サロン活動  
週1回 木曜日 9時30分～11時30分  
参加費 200円

【活動メニュー】

出前講座による学習会、創作活動、屋内外でのレクリエーション、草花観察会(集落内を歩きながら)、お寺でお茶会 など

- 日常生活上の支え合い、助け合い活動
- ちょっとした困りごと支援活動



■団体名

多賀町大杉地区福祉会・大杉サロン「しゃくなげの会」  
福祉会代表 園本彰子

■参加者

区民

■活動拠点  
連絡先

犬上郡多賀町大杉190

■活動のきっかけ・実現までの経緯

福祉会が発足後、平成13年からは月1回、地区の公民館でふれあい・いきいきサロンが開催してきました。

平成28年からは町社協からの呼びかけにより「地域ふれあい支え合い事業」にて、週1回の地域サロン開催の他、地域の自発的な見守り、支え合い活動や日常生活上の困りごとの支援、介護予防に関する内容にも取り組んでいます。



利用者さんの声

サロンは、週1回みんなとわいわいおしゃべりしたり活動することができる楽しみな場所、自分で歩いて行けるところにあるのが嬉しい。

元気に参加して、寝たきりや認知症を予防したい。

活動者の声

週1回の地域サロンの他、年に3回（春・秋・冬）地域全体による福祉のつどいを開催しています。

粗大ごみや資源回収も区役員や福祉会メンバーが協力して、高齢者宅等を支援しています。

地域サロンの場所で「野菜等の販売」がされています。近くに買い物する場所のない高齢者の生活の助けになっています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

福祉会のメンバーも参加者もお互いに協力しながら、できる人ができることをする、主体的に活動に参加する姿勢を大事にしながら交流しています。

■活動内容

栗栖地区福祉会は、平成11年に町社協からの呼びかけにより発足しました。福祉会の構成メンバーは、区長、区長代理、老人会会長、民生児童委員、地域福祉推進員、前年の区長や老人会会長、ボランティアで構成しています。

○地域サロン活動

週1回 水曜日 9時30分～13時30分 参加費 300円

【活動メニュー】創作活動(折り紙でカレンダー、壁画製作など)、屋内外でのレクレーション、花壇の花植え、おりがみ紙芝居の練習 など。

・サロンの活動内容については、参加者も交えてみんなで相談し、高齢者からも積極的な意見が出ています。

○日常生活上の支え合い、助け合い活動

○ちょっとした困りごと支援活動



■団体名

多賀町栗栖地区福祉会・栗栖サロン「ヒヤシンス」  
福祉会代表 中溝久子

■参加者

区民

■活動拠点  
連絡先

犬上郡多賀町栗栖521

■活動のきっかけ・実現までの経緯

福祉会が発足後、平成13年からは月1回、ふれあい・いきいきサロンを地区の会議所で開催している。町社協からの呼びかけにより、平成20年10月から「ふれあい・いきいきの家事業」により週1回のミニデイサービスとして、平成28年からは「地域ふれあい支え合い事業」にて、週1回の地域サロン開催の他、地域の自発的な見守り、支え合い活動や日常生活上の困りごとの支援、介護予防に関する内容にも取り組んでいます。

また高齢化率が高まるなか、見守り活動が必要とのことから、水栽培のヒヤシンスの球根を地区の全戸に配布し、ヒヤシンスの栽培を通して情報収集や声かけ等、高齢者の見守り活動を続けています。サロンの活動が周知されてきたことでヒヤシンスの球根を配布する活動は数年前に一時休止となっていますが、現在新たな見守り活動について福祉会メンバーで検討をしています。



利用者さんの声

- ・週1回、身近なところに出かけられる場所があるのは嬉しい。
- ・サロンに来たら、自分でできそうなことは進んでお手伝いするようにしている。
- ・サロンに来るとみんなとおしゃべりできる。来ることができるよう、元気で居たいと思う。

活動者の声

- ・週1回の地域サロンの他、秋には地域全体での福祉のつどいを開催しています。
- ・福祉会だより(毎月)を各戸に配布し、活動内容の啓発、見守り活動に努めています。
- ・年間を通して取組める活動を行うなど、活動内容も工夫しています。これまでの活動としては、「おりがみ紙芝居」を参加者みんなで製作し、地区の福祉のつどいなどで発表しました。また、最近では他地区のサロンとの交流会で発表したりしています。今年度は、「手作りかるた」の製作に取り組んでいます。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

月1回、スタッフミーティングを行い活動内容の相談や地域についての情報共有をする中で、サロンの参加者が固定化し、新たな参加者が増えないといったこともあるため、現在のサロンの参加者よりも若い年代が楽しく参加できて、介護予防につながる場所づくりについて検討し、サロンとは別の居場所づくりを考えています。